

## 高校三年「宗教論争」の記録より

高校3年生の時、何がきっかけか忘れたが、同級生との宗教論争に明け暮れた。就職組だったので心置きなく論争に熱中した。創価学会員の同級生から「折伏経典」を借り、それを読破した。無宗教派の私(二・三の友を援軍として)と、二・三の学会員とバトルを演じた。理論好きだった私にとり、この論争は大変楽しいもので、折伏されないように理論武装に打ち込んだ。今でも忘れられない、高校時代の大イベントとなった。同級生からの手紙 1・2 も論争の中で渡されたものだ。この同級生の生真面目さと哲学的思考には賛同もした。

もし、高校時代の思い出は？と聞かれれば、躊躇なくこの大激論と答える。逆に高校であまり勉強したという記憶がない。学校近くの桜淵の貸しボートを借り、友人と上流の弁天橋を目指しての競争ばかりしていた。

社会に出て役立っているのは友との論争であり、勉強をしておけば良かったという後悔はない。ただ、語学だけはもう少し勉強しておけば良かったと反省している。

### 友人に借りた「折伏経典(注1)」より抜粋 高校三年の春

仏法とは

釈迦の教え

- ・ 因果 前世でおかした罪のむくい
- ・ 折伏 敵をくじいて従わせること 広める

創価学会について

- ・ 南妙法蓮華経 (本尊) 絶対の本尊
- ・ 「祈りとして叶わざるなく、罪として滅せざるなく、福として来らざるなく、理として顕われざるなし」

心も清く、身も清く、いかなる病魔も退散してしまう。「ただ信心の厚薄による」  
厚薄の基準は？

- ・ 愚迷の徒ばかり *創価学会会員以外の者*
- ・ 絶対的な幸福
- ・ 貧乏は過去世の宿命
- ・ 悪口(を言われること)が多ければ多い程、罪を消して金持の境涯へ
- ・ 彼らと同格の位置について争論すべきではない
- ・ 我ら(会員)高い位のもの
- ・ 支配されるものの思索を系統だてる時に信仰という
- ・ 科学の力を妄信

- ・ 「心の師とはなるとも、心を師とせざれ」
  - ・ 学会には信心がある。大御本尊様が有る。
  - ・ 人間の指導を忘れた結果
  - ・ 生命の実体を知らねばならない。その実態は因果の法則により成り立ち、この世の悩みも苦しみも、仏法の永遠の生命観によってこそ、始めてその原因がつかめる。  
(根本の因果律)
- 

## 折伏經典読後感

折伏經典を徹夜で読んだ。面白かった。自分(学会員)が全てであり、正しい。学会(日蓮正宗)以外を全否定する論理であった。読んだ疑問を学会員の友人にぶつけた。学会の豊橋公会堂の集会にも誘われた。参謀とかの軍隊名のえらい人が音戸をとると、公会堂中が大音響で震えた。凄いというよりも、鬼気せまるものがあった。ちなみに、友人は高校生ながら分隊長だと言っていた。この軍隊調の組織とは何だ?大いに疑問を持った。

---

## 同級生(学会員)からの手紙 その1

現代の人々のいう幸福は、相対的な幸福である。

明日も知れない人生

一寸先きは闇の生活

人生をもっと真剣に

宗教についての基礎知識がなにもなくて、宗教のことを考えるのでは、進歩しない。

何も実践しないで、自分の考えだけで反対するということは、正しくない。

精神修養ではない。

生活で最も大切なのは、その一瞬々々の生命力

生命力が旺盛な時は、その生活も楽しい生活になるし、反対の場合は生活自体が、不幸の生活になる。

自分の力に限界がある。

学問は我々の知識を増進するだけのもので、人間形成にとって、もっとも大事なものは、知識だけでなく、人間そのものが大きな革命をしなければならないことである。

目先のことのみを見ることに終始して、大局観に立って、生活を見、人生を確立しようとしなない青年の人生観、思想、考え方が誤っている。大学でも教えてくれない、実生活にそくした学問を、学会の青年部は身につけている。それが強みなのだ。

創価学会を語らずして、これからの日本は語れない!

## 同級生（学会員）からの手紙 その2

政治は我々のものだ

政治とは？

正しい哲学によって、ひとりひとりが、人生観、社会観を確立して、そのなかから、政治をとる人が出、民衆と直結して、今度は、最善な社会機構の確立に努力していくこと

創価学会の政治

経済と結びついて国家の生きる道

そのために必要な操作や運営が政治である。

政治の議論がイギリスのように国民の熱心な話題にならなければ、政治はけっして良くならない。

政治を軽視するというのが、今日の政治の最大の欠陥

個別訪問を禁止しているような日本では、真の民主主義は育たない。

個々が、いっさいのこと、国家のことも、社会のことも、国際観も、しっかり確立して、その上に立って、全体が調和、すなわち団結することが民主主義の理想。

政治を監視していく大衆運動 創価学会

政治を監視する！

注 1 折伏経典とは、創価学会教学部が編者で新入会者の必携書として刊行されたもので、「折伏とは、邪宗邪義を折り、正法に伏せしむる、実践行為である」としている。邪宗とは日蓮正宗以外を指す。